

平成30年度
組織目標達成度測定シート

| 今年度の目標設定 | | | | | 今年度の目標の達成度と今後の取り組み | | |
|--|------------------------------|--|---|--------|---|---|------------------------|
| A 組織の方針(使命) | B 重点目標項目 | C 設定理由・考え方 | D 活動(手段) | ㊿ 施政方針 | E 目標の達成評価 | F 目標の達成度 | G 今後の取り組み |
| 組織の基本方針又は使命 | 今年度取り組む事項 | どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか | 重点目標項目を実現するため行う活動や手段 | | 目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入) | ※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価) | 目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み |
| 京田辺市の教育は、京田辺市教育大綱の基本理念である「未来を拓く、京田辺のひと・まちづくり」に基づき、活力とうるおいのある未来をつくるため、確かな見通しを持って主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の形成を目指すものである。 そのため、学校教育、社会教育、社会体育の密接な連携のもと、大学をはじめ地域の学術研究機関などの協力も得ながら、子ども達の豊富な社会体験を通して人間形成に努めるとともに、市民の生涯にわたる学習活動を推進し、地域に即した教育活動の創造と活性化のために、より一層の努力を図るものである。 | 1. 中学校給食実施基本方針の決定及び調査・検討 | ・中学校昼食等検討委員会の答申を踏まえ、給食の実施に向け取組を進める。 | ・答申(報告書)の内容に基づき、教育委員会として基本方針を決め、年内を目処に基本的な構想をまとめる。 | 36 | 中学校昼食等検討委員会の提言を受けて、5月に中学校給食実施基本方針を査定すると共に、中学校給食実施基本計画の策定に向け、庁内検討委員会を開催し、調査・検討を進めた。 | A | |
| | 2. 放課後子ども総合プランの充実 | ・これまでの取り組みを継続しつつ、「放課後の子どもの居場所」において、留守家庭児童会以外の選択肢がない状況を変えていく必要がある。 | ・H30年モデル事業の実施 | | プレ事業として、平成31年3月の約1か月、三山木小学校においてキッズプレイス事業を実施。期間は短かったが、想定を上回るニーズがあることなど、試行実施しないと分からない各種データが収集できた。 | A | |
| | 3. 認定こども園の開設準備及び今後の幼稚園のあり方検討 | ・H31.4に民間の認定こども園が開設することにより、公私連携協定を締結し、開設に係る調整を図る。 ・今後の幼稚園の在り方を検討する。 | ・市内で初めての認定こども園となるため、運営等についてみみづく福祉社会と調整を行う。 ・今後の公立幼稚園の認定こども園化への検討を行う。 | | | 認定こども園については、公私連携協定を締結し、4月3日に開園・入園式を行うことができた。 公立幼稚園のこども園化に向けては、学校環境整備課や輝くこども未来室、園長会とも協議を進め、大住幼稚園の園舎建替後に、同園を公立認定こども園とするため、実現に向け検討を行っている。 | A |

※【目標の達成度の区分:A達成できた、B目標達成に向け事務を進めている、C下半期に実施、D達成困難】

平成30年度
組織目標達成度測定シート

| 今年度の目標設定 | | | | | 今年度の目標の達成度と今後の取り組み | | |
|-------------|--------------------------|--|--|--------|---|-----------------------------|------------------------|
| A 組織の方針(使命) | B 重点目標項目 | C 設定理由・考え方 | D 活動(手段) | ㊿ 施政方針 | E 目標の達成評価 | F 目標の達成度 | G 今後の取り組み |
| 組織の基本方針又は使命 | 今年度取り組む事項 | どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか | 重点目標項目を実現するため行う活動や手段 | | 目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入) | ※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価) | 目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み |
| | 4. 幼小接続カリキュラムの充実 | ・幼小のスムーズな接続による、小1プロブレムの解消を行う。 | ・幼小接続カリキュラムの検証を行い、次年度に向け、より充実した接続カリキュラムを作成する。 | 32 | ・幼稚園・小学校の双方とも接続カリキュラムを作成し、指導することができた。 ・年間3回の交流会を開催し、交流及び検証を行った。 ・今年度、小学1年生の不登校はいなかった。小学校への接続をスムーズに行うことができた。 | A | |
| | 5. 今後の小中学校の整備方針に関する調査・検討 | ・転入等に伴う児童生徒の増加が見込まれる学校や、一方で、減少が見込まれる学校においても、学校運営・施設整備両面から引き続き適正な教育環境を保持していくもの。 | ・将来人口推計や現状の諸課題を踏まえ、小中学校の児童生徒の増減を調査し、その結果を踏まえ部内協議等において市の方角性を検討する。 | | 児童生徒の増減等市内小中学校の抱える課題を部を横断して抽出し、整理を行った。また、平成25年度に実施したこども人口推計の時点修正を実施し、今後の施策の基礎データとして、より精度の高いものとなるようにした。 | A | |

※【目標の達成度の区分:A達成できた、B目標達成に向け事務を進めている、C下半期に実施、D達成困難】